

ブナ林に見る地球温暖化

平成17年2月に京都議定書が発効され、地球温暖化はますます大きな課題となつていきました。出来るところから始めましょーっ！

1、ブナ林は命を育む森。

ブナ林と聞くと、皆さんはどんなイメージを思い浮かべますか？

高原、避暑地、豊かな森、野鳥の鳴き声：白神山地が有名な東北地方や長野県などを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

ブナの分布域は東北や中部など東日本にかたよってはいますが、実は、北海道南部から九州に至るまでほぼ全国に及んでおり、私たちの身近なところにも存在しています。滋賀県では、湖北と湖西、鈴鹿山脈に約60km²ものブナ林が分布しています。

ブナは冷温帯の代表的な落葉広葉樹の一種で、平均気温が6℃～13℃、降水量が1200mm以上と涼しくて降水量の多い地域に生息し、大型動物のすみかにもなる豊かな森林を形成します。

ブナ林は「緑のダム」と



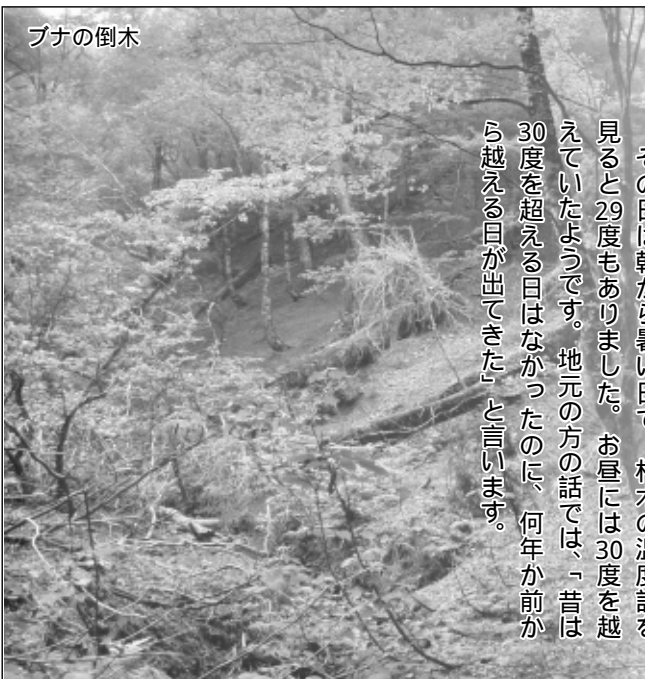
ブナの巨木

言われることがあります。それはブナの大木が1本で、春に約50～60万枚も茂らせ秋には落葉した葉が、土の上に厚い腐葉土層をつくり、約8ヶ月の水を貯めることが出来るためです。ブナ林に貯められた水は、地上に湧き出て川となり、滋賀県であれば琵琶湖に注がれます。ブナ林は動物や私たちを潤してくれる水の源であると言えるでしょう。

また、ブナ林はたくさんの実をつけ、ツキノワグマなど大型動物まで養うことの出来る森の動物の「食物の宝庫」となり、「すみか」となります。杉は1000年生きることが出来ませんが、ブナは200～300年が寿命であると言われていいます。ブナは、幹内の含水量が多く腐りやすいという性質を持っている為、老木になると中が空洞になり、ツキノワグマなどの大型動物が冬眠するには絶好の場所となるのです。

寿命が尽きたブナは台風や雪によって倒木し、キノコなどの菌類によって分解されます。倒木した木には、幹にも株にもびっしりとナメコなどのキノコが生え、1本で10キロ以上のキノコが採れることも珍しくありません。そして、分解され土のように柔らかくなった幹には、ブナの種が落ち発芽します。芽は、シカなど動物の食料となりますが、それを免れた芽は成長し大木となります。

こうしてブナは、生から死へ生涯を通して「緑のダム」となり「食料」となり「すみか」となって、たくさん命を育みながら森を形成していくのです。



2、ブナ林に何が起こっているか。

環境省が発行している「STOP THE 温暖化 2005」の中の「温暖化のもたらす深刻な影響(4)」によると、温暖化が進み気温が3・6 上昇した場合、ブナ林の分布可能域は約90%消失すると予測されています。滋賀県では、気温が2 上昇するとブナ林の分布可能域がなくなってしまう可能性があります。ある新聞記者の方からは、「最近、滋賀のブナの芽が出ないらしい。」と聞きました。何故芽が出ないのか…。温暖化が原因なのか。私は、高知県事務所の林業職員さんに同行いただき、滋賀県高島市朽木生杉から京都府美山町芦生にかけて、実際にブナ林を観察してみることになりました。

その日は朝から暑い日で、朽木の温度計を見ると29度もありました。お昼には30度を越えていたようです。地元の方の話では、「昔は30度を越える日はなかったのに、何年か前から越える日が出てきた」と言います。

ブナ林に入っていくと、少しずつ異変に気づき始めました。まず、「下草がない」ことです。木間が大きく、太陽の光が入ってくる理想的な林であるのに下草があまり生えてないのです。林業職員さんに「何故」か聞くと「シカの数が増え、下草が食べ尽くされているから」との答えが返ってきました。以前、冬にはたくさん雪が降り、厳しい寒さのため越冬出来るシカは限られていました。けれども現在では、雪の量が減り、冬の寒さも緩和されてきたため、シカが冬を越せるようになってきたのです。シカは、木の実や新芽も食べてしまうので、新しいブナは育ちにくくなっています。「ブナの芽が出ないらしい」という新聞記者の話の真相は、このような理由によるものでした。

さらにブナ林を奥に進んでいくと、かなりの数の倒木が目につきます。ブナは倒木し、そこから芽吹いて成長していくという循環をしますが、林業職員さんは「倒木の数が多すぎる」と言います。何故、こんなに木が倒れるのかというと、台風のせいというのもありますが、実は、雪が原因だと言われています。皆さんは「雪は少なくなってきたのに何故」と思われることでしょう。確かに、雪は減少しているのですが、気温が高くなってきたため、さらさらだった雪質が水分の多い重くべたべたする雪に変化してしまい、ブナの枝にくっついてその重みで倒木してしまうのです。このように倒木が進み、芽が育たなければ、ブナ林は本当に無くなってしまいかもしいないかと私は痛切に感じました。山の奥深くに静

かに佇み、動物や私たちにいろんな恵みを与えてくれるブナ林は、今、人間の引き起こした地球温暖化の影響を受けています。



ブナの実

帰りに、ブナの木にたくさん木の実がついているのを発見しました。林業職員さんによると、「こんな車道に面したところで見つけられることは珍しく幸運なこと」なのだそうです。今年は4年に1度という豊作の年であるとのこと。ブナは子孫を残すために、「豊作の年にはきちんと実をつける」という使命を一生懸命に果たしています。私たちも子供たちのために、身の回りの出来ることから始めませんか。

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター

職員 森口 友美子